自由民主党　代表

自由民主党　エネルギー総合政策小委員会事務局長
参議院議員　**加　納　時　男**

御紹介いただきました自由民主党の加納時男でございます。参議院では経済産業委員長を務めております。きょうは、第５回の全国原子力発電所立地議会サミットの開催を、まことに心からお祝い申し上げたいと思います。

お話申し上げる前に一言お見舞い申し上げたいと思いますが、このたび、空前のと申し上げてもいい豪雪が日本海沿岸地方を中心に襲いまして、大変な被害が出ております。心からお見舞い申し上げまして、復旧対策、私ども全力を尽くしてまいりたいと思っております。

きょう、ただいまサミット宣言を伺いました。自民党を代表しまして、これについてコメント申し上げるわけでありますが、お手元に挟んである紙があるかと思います。「わが国原子力の基本政策」というのがございますが、これは、去る８月２日に、自民党がさまざまな部会の合同会議を連続して開催いたしまして、最終的にこれを取りまとめたものでございます。名前は「わが国原子力の基本政策」でございます。この内容を踏まえまして選挙が行われましたけれども、総選挙のマニフェストにも、この旨が織り込まれました。そして、この方針は政府にもしっかりと伝えまして、10月14日に閣議で決定しました原子力政策大綱と整合性が取れているものというふうに考えております。

今、伺いました、サミット宣言を伺っておりますと、まさに、皆様方が第一線で直面し、そして、お悩みになり、あるいは、お考えになっていただいていることと、私どもが議論してきたこととが同じテーマであることは、きょう、意を強くしたところでございます。この基本政策、１枚紙でございますが、ごく短い時間で御報告申し上げたいと思います。

上の方から、日本と世界の情勢がありますが、省略いたします。今、世界で欧州、アメリカ、原子力に対して新しい投資の動きが活発になってきております。加えて、中国、インド等、発展途上国において原子力の拡大が見られているところであります。

この基本政策のポイント３つほどありますが、１つは上から２段目にあります<陰>左、<光>右と書いてございますが、あらゆる科学技術と同様に、原子力にも克服しなければならない課題、いわばリスク、陰があります。これは、よく反対する方がおっしゃる、技術的なリスクだけではなく、政治的なリスク、経済的なリスク、今これが非常に大きいと思います。加えて、きょうのサミット宣言でも指摘のあった、社会的信頼を失ったらだめだ、といった社会的リスク、４つのリスクがあります。

一方、原子力の光は、右にありますように安定したベースロードであり、エネルギーのセキュリティに強く、環境適合性があり、長期経済性があるという長所でありますが、我々は、この陰をしっかりと見据えた上で、一つ一つ丹念に、これを克服する処方せんを議論してまいりました。

それをまとめ上げたのが、下の方の、卵の左と右にある6つのボックスであります。

そして、これらを克服した上で、真ん中にあります卵型の結論になるわけであります。結論は、これから確実に出てくることがございます。それは、先進国の情報革命、加えて、発展途上国の急成長、こういったことからするエネルギー需要の高まりと、もう1つは環境問題の顕在化でございます。こういった資源・環境の制約を克服して、世界の持続的な成長を図るためのシナリオ、ポイントは「ディ・カーボナイゼーション」、「炭素離れ」であると我々は考えております。

具体的には、卵の上3分の1にありますように、原子力だけとは決して言いません。省エネルギー技術の研究開発とその普及、再生可能エネルギーの少量であってもこれを大切に使うこと、化石燃料を拒否するのではなくて、効率的かつクリーンに利用すること、これに加えて、きょう皆様のサミット宣言にもありましたように、原子力の平和・安全な利用が不可欠であるというのが我々の結論であります。

具体的には卵の下半分にありますように、基軸電源として原子力を位置づけ、今後も、30～40%を最低として、それ以上の比率を維持する。サイクルはしっかり回す。プルサーマルは実施する。中間貯蔵は行う。高レベルは埋める。ただし、これらはすべて、まさに、きょうの皆様の御提言にあるように、地域との信頼関係のもとに推進するということであります。

卵の左右の中で、六つのボックスの中で、先ほどのサミット宣言に特に関係のあるところを一、二御紹介します。例えば、ボックスの左側の一番上、安全確保が大前提であるということであります。その中で、例えば高経年化対策、先ほど御指摘がありました。これについては、我が党としては高経年化対策、先ほども30年を超える炉が出てきている。そして、12基を数えるという御指摘がございましたが、そのとおりであります。30年を超えるものについての徹底的な安全レビューを行うこと、それ以降の定期的なレビュー方策を確立することを、技術的な問題としての一つの、我々は結論を出しました。

もう1つ、右の下を見てください。「国民の信頼」でございますが、これは、その後についている本文の11ページの、一番下の行から12ページの頭にかけて、ちょっと読ませていただきますと、「プラントの高経年化にかんがみ、前述の安全レビューに加え、わが国の原子力創成期の頃から長期にわたり立地・運転を支えてこられた地域に対する共生方策のあり方について検討する。」ということで、この項目は、これに先立って、新潟、福井、地元、我が自民党として電源立地調査会大島会長、私は副会長をやっておりますが、メンバーが訪問し、地域の御要望を十分承って、この高経年化は、特にこういう表現で書いたものでございます。

若干、御意見が違うかもしれませんけれども、ダブルチェック体制についても我々は議論をいたしました。また、きょう御指摘の対テロ具体策を早急に策定すべきというところで、既に昨年、法律を1本通しましたけれども、引き続き、この具体的な強化策をとってまいります。

右の下のところ、国民の信頼のところ、ちょっと見ていただきますと、先ほど御指摘のありました安全文化の再構築、コンプライアンス、品質保証に加えまして、メディアへの迅速・的確な情報の開示、そして、事実誤認があった場合の適切なる迅速なる対応、事実を教える客観的な原子力エネルギー教育を推進する、池坊政務官と御一緒に文部科学大臣政務官を務めたときがございますが、そのときに文科省として初めて、原子力エネルギー教育を文科省の名前で始めることとし、経済産業省と緊密な連携のもとに実施に入り、既に22の県で、これが県の自主的な御意向

によって推進されているということも御報告申し上げたいと思っております。いずれにしましても、皆様方と思いは同じところでございます。この原子力基本政策、我々はしっかりつくったつもりでございますが、これの肉づけをすべく、さらに、きょう御出席の各地域に出向きまして、御意見をしっかり承ってまいりたいと思っているところでございます。

この政策は、先月開かれました欧州の600人集まった原子力国際会議において紹介しましたところ、各参加者から非常にこれは共感を持って迎えられたということも御報告申し上げたいと思います。私どもは、責任与党の中核といたしまして、皆様とともに日本の原子力政策を、責任を持って推進してまいります。今後ともよろしく御指導ください。ありがとうございました。

祝　電

自由民主党　副幹事長
衆議院議員　**松　浪　健四郎**

第５回全国原子力発電所立地議会サミットの御盛会を、心よりお喜び申し上げます。日ごろより原子力発電による電力政策に、温かい御理解と御支持をいただいております皆様に、心より敬意を表します。

資源の少ない我が国におけるエネルギー政策において、原子力発電の担う役割は、今後ますます重要になってまいります。今回のサミットにおきましては、地域の現状を御理解されている皆様による真摯で活発な議論により、今後の原子力発電所に対する前向きな御提言をいただけるものと思います。私も皆様の御指導をいただきながら、地域と共存する安全で環境に配慮した原子力発電政策に取り組み、明るい未来づくりのため、国政に専心してまいります。

終わりに、皆様のますますの御活躍と御健勝を祈念し、お祝いの言葉といたします。

公明党　代表

公明党　副幹事長
衆議院議員　**池　坊　保　子**

ここにお集まりの皆様方、おはようございます。公明党の衆議院議員池坊保子でございます。本日は、全国原子力発電所立地議会サミット御開催、本当におめでとうございます。

ここにいらっしゃる皆様方には、それぞれ分科会において原子力の持っている課題、そしてまたそれぞれの地域が抱えている固有の問題について議論を闘わし、問題提起し、情報交換なさいましたことに深い敬意を表しますとともに、大変心強く感じております。

私は政治家になりまして10年、教育行政、文化・芸術・スポーツ、そして、科学技術の進展に尽力してまいりました。この、地下資源のない島国の日本が、世界に伍して競争社会の中を生きていくためには、ただ、ひとえに日本人が持っているＤＮＡ、そして、個々人の能力、英知、それにかかっていると思うからでございます。原子力の、これからのあり方も、日本の21世紀に生きていく中、大変大きな課題だと思っております。よく、反対なさる方に申し上げるのです。それでは江戸時代に戻ってもいいのですか。自動車は使わず、そして、このような快適な暖房も使わないで、火鉢で生活する。それができるでしょうか。それができないならば、もちろん、代替のいろいろな研究も進んではおりますが、原子力を上回るだけのものとはなっておりません。ならば今、直面している原子力が果たす役割とその課題について、もっともっと事業主、そして、国が地域の皆様方が手を取り合いながら、何をしなければいけないかを考えていかなければならないのだと思います。私は政治家になるまで、関西電力の、ある時期委員をしておりました。発電所に見学に行くと申しましたら、娘が、「そんな視察、危ないからやめてちょうだい」と申しました。

私の娘が殊さら無教養で、そして、無理解なわけではございません、一般的な国民なのです。つまり、一般的な国民がまだまだ原子力の発電所のあり方について十分に知り得ていないこと、これは大きなこれからの問題ではないかと思っております。もちろん、これは国がしなければならないこと、ございます。情報公開、事業主の透明性、そして、もし、事故というのは大丈夫なんだ、口でそう言うだけではなくて、本当の理解を得るためには、今、加納代議士がおっしゃいましたような、エネルギー教育をもっともっとしていかなければならないと思います。

私も２年９カ月、文部科学大臣政務管をいたしまして、教育行政には大変力を注いでまいりましたが、今ここで改めて、小さいときからのエネルギー教育のあり方を、いろいろな場で教えていかなければいけない、その必要性を痛感いたしました。そして、また同時に、確かに安心・安全が大前提になっていくのは言うまでもないことなのです。私が政治家になりましてすぐに、ＪＣＯの事故がございました。本当に、科学者の小さな、もう末端の手抜きから起こった事故ですけれども、科学技術はそうした末端の方々の力に負うことが多いのだ。そして、それこそがエネ

ルギー教育でもあり、また、みんなの緊張感を常に持っていかなければいけないということを、私たちに教えるとともに、国民はあの事故に大きな不信感を覚えたと思います。また昨年は、福井における熱湯を浴びて５名の方が亡くなったというような事故もございました。放射線漏れという直接の事故でないにしても、私たち国民が不信感を持ったことも確かですし、それによって事業主もまた隠蔽だとか、記録改ざんだとか、報告虚偽等もございました。私たちは、これから、さらにさらに原子力発電所が地域の皆様方に支えられながら、どんなに国民１億2，000万の人にとって必要であるかということを発信していかなければいけない、その思いを深くしております。

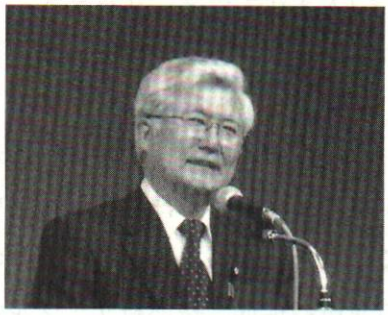
きょう、サミット宣言を伺いまして、これをしっかりと、私も持ち帰り、一体、政治の場で何ができるのか、そして、これから何をしなければならないかを、地域にいらっしゃる皆様方と手を取り合いながら、研究し、そして、その成果を上げてまいりたいと思っております。

私たち公明党は、現場を大切にし、そこに生きている方々が快適な生活ができるように、そして、安心・安全の生活ができること、そのことに、いつも心しております。

この、美浜の事故が起こりましたときにも、すぐ視察団が結成いたしまして、出向き、経済産業省や国や関西電力にも問題提起をいたしました。これからも地域にいらっしゃる皆様方とともに、21世紀、原子力発電所が、地域の方々の温かな御協力のもとに、安心・安全確保ができる、そのような発電所として大きな役割を果たし、私たちの一人一人の国民生活に大きな利便性を果たしてくれますことを願い、きょうの日の、私のあいさつにさせていただきます。

皆様、本当にお疲れさまでございました。そして、これからどうぞ、どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

民主党　代表



参議院議員　**小　林　正　夫**

ただいま紹介いただきました民主党参議院議員の小林正夫と申します。

第5回のサミットの開催、きのう、きょうと、大変多くの方の参加のもと、成功裏に今の時間を迎えられていること、本当にお祝い申し上げます。

ことしの冬は大変な豪雪です。また、ここ一、二年見ますと、日本は地震、あるいは風水害、もう、大変な災害列島と化しております。それぞれの地域で復興、あるいは、これからのいろいろな事業の展開に対して、相当御苦労されていると思いますけれども、お見舞い申し上げたいと思います。

私は参議院の比例区で当選をしている議員であります。したがいまして、北海道から沖縄まで全国私の選挙区ですから、方々にお邪魔しております。その関係から、すべての原子力発電所、あるいは、青森の核燃料サイクルの原燃の施設、訪問させていただきまして、そこで働いている皆さんと、親しく意見交換をさせていただいております。そのことから言うと、やはり日本は資源がない国ですから、これからも原子力発電、あるいは核燃料サイクルをきちんと回していく、このことが大変重要である。しかし、その前提は安全・安心が一番大切なのだということを、それぞれの地域の、いろいろな意見交換の中で、身を持って知っているつもりでございます。

そういう意味から、あしたから通常国会始まりますけれども、民主党としても原子力発電、この安全はもちろんのこと、食料の安全の問題、あるいは子供の安全の問題、それと建物の安全の問題、こういうことをしっかり追求して、住みやすい、安心して生活できる日本の社会を目指し、頑張っていきたいというふうに思います。

資源の90％を海外に頼っている、これが日本の実情であります。なおかつ6，500の島から日本は成り立ち、住民登録で見ると、310の島に、私たちの、日本の方が住んでいるということがわかりました。どこに住んでいても電力の安定供給がしっかり行われるということが大変大事なことだと思います。いろいろな世界の国を見てみますと、電力がきちんと供給されていない国、どちらかというと、なかなか民主化がまだされていない、こういう国が多いんじゃないかというふうに私自身は感じております。

したがって、電力の安定供給というものが、民主国家の大もとであり、あるいは平和国家を構築する本当の大もとである、このような認識を私どもは持っております。そういう意味から、これから先も原子力で発電する割合を30％から40％、日本の発電の中に占めていく、このことが大変大事だというふうに思っております。ぜひ、そういう意味で、安全・安心を大前提として、これからも原子力発電、あるいは核燃料サイクルの構築に向けて、民主党としても頑張っていきたいと思います。それには、きょうお集まりの各電源立地の、特に議員の皆様には大変御協力をい

ただくということになっていくと思います。引き続きどうぞよろしくお願いしたいと思います。

あしたから始まる国会では、特別会計の見直しというのも一つ大きなテーマになります。

確かに、特別会計の内容をよく見てみますと、むだに使われていたり、あるいは役人の天下り先としてのお金の使い方がされていたり、いろいろ反省をするところはあると思います。したがって、財政事情の厳しい、この我が国日本の状態ですから、むだを省くということは、これは大変大事なことだと思います。その特別会計の中に電源特会があります。さらに、電促税という税制があって、目的を持って国民の皆様からその税金を納めていただいているというのが今の実態です。私たちの民主党としても、電源開発、あるいは電子力発電の推進、核燃料サイクルの構築、それと高速増殖炉の研究推進。こういう目的のためにお金が当然かかりますから、そういう目的を持って電促税については維持をしていくということが大事じゃないかと思います。

さらに、周辺地域整備資金、これも電源立地あるいは原子力開発を進めていく上で大変重要なファクターですから、必要なお金はしっかり確保して地域への交付金として、私は確保していく必要があると考えております。そういう観点に立って、これから始まる国会でいろいろ論議をさせていただきたいと思います。

きょうお集まりの、それぞれの地域の御発展を御祈念し、民主党の代表としてごあいさつをいたします。ありがとうございました。

日本共産党　代表

日本共産党　原発エネルギー問題委員会事務局長
衆議院議員　**塩　川　鉄　也**

お集まりの皆さん、御紹介いただきました日本共産党衆議院議員の塩川鉄也でございます。党の経済産業部会の責任者及び、原発エネルギー問題委員会の事務局長を務めております。きょうは党を代表いたしまして本サミットにごあいさつをさせていただきます。

きのう、きょう２日間にわたりましてのサミットの御盛会、心からお祝いを申し上げます。地域での皆さんの声が、何よりも地域住民の皆さんの、安全の確保に当たって大きな役割を、発揮をされている、このことを改めて実感をしております。この全国原子力発電所立地市町村議会議長会が、その目的に福祉の向上と地域振興とともに、住民の安全の確保を掲げて活動していることに、心から敬意を表するものであります。

この間の、一連の電力会社の不祥事や、事故の現場に行った際に、現地での地域の皆さんの声を代弁した議会関係者の皆さんの発言が、大変、国会においても重きを置かれて受けとめられている、このことを、そこここで実感をしているところであります。政府の原子力行政が、技術的に未確立である軽水炉発電を基幹電源として推進をし、また、安全規制行政についても、この原子力の推進行政から独立していないことなど、国際水準から見ても立ちおくれているもとで、この原発立地市町村の皆さんが、地域住民の安全の確保のために、電気事業者や、あるいは政府に働きかけをしてきたことが、今の住民の安全を保障する大きな力ともなってきたことと思っております。

昨年決定をされました原子力政策大綱ですが、その内容は核燃料サイクルの推進と既存原発の酷使という、率直に言って、私ども、危険な路線を推進するものだと思っております。同時に、この原子力政策大綱におきましては、自治体には住民の安全を守る責務があることが明記をされ、自治体が住民の立場から、事業者や国の安全対策にかかわる取り組みを行っていることを、評価をし、また指摘をし、国や事業者がその地方自治体の取り組みに協力すべきであるということを明記しております。

従来の原子力政策大綱は、地方自治体の役割について地域振興の確度からしか取り上げておりませんでしたが、地域住民の安全の確保に当たって、地方自治体の役割が重要だということを初めて指摘をしたのが昨年の原子力政策大綱ではないでしょうか。そこに立地自治体における議会関係者の皆さんの働きかけがあり、また役割の大きさもあらわされている、このことを思うところであります。

この間の原子力行政や原子力事業者の事業に当たりまして、私、昨年感じた一つの懸念がございます。六ヶ所の再処理工場、貯蔵プールの欠陥に当たりまして、昨年夏に現地調査を我が党で行いました。その際に、私、現場の貯蔵プールを見ることができませんでした。それは、この貯

蔵プールなどの視察をする際に、ここで見聞きしたことについては事業者の了解を得て公表してくれ、そういう誓約書を書いてくれ、こういうことを求められたからであります。貯蔵プールの欠陥という、安全にかかわる重大な問題について、国会においても広く国民の立場から監視をする、そういう立場で臨んだ視察において、見聞きしたことについて事業者の了解を取ってほしい。これは筋違いではないか、このことを、強くその場でも求めたものでしたけれども、署名をしない限りは入れませんという、その対応でありました。これは「自主・民主・公開」の原則を掲げた原子力三原則にも背くことにもなりますし、何よりも、情報公開を通じて地域住民の皆さんとの信頼を確立することこそが、原子力事業者にとっての一番の地域における責務であり、一番の信頼のあかしだったはずであります。これに逆行するようなことを進めることについて、強い懸念を覚えるものであります。

我が党の立場では、原子力の発見は大変重要なもので、安全な利用が将来実現する可能性を否定するものではありません。しかしながら、今ある原発については技術的に未確立なものであり、段階的な撤退というのが我が党の立場であります。

同時に、だからこそ、現実の、原発の問題では、安全優先、国民・住民の安全を守る立場を第一に取り組んでいるところであります。この立場から自治体住民の皆さんの意見が尊重され、安全優先の見地で原子炉行政を改めていくために、ともに奮闘する決意を申し上げまして、本サミットに当たりましてのごあいさつとさせていただきます。どうもありがとうございました。

兵庫県知事　**井　戸　敏　三**
代理　政策室課長　畑　　正　夫

非常に意義深いサミットを、この地、兵庫神戸で開いていただきまして、非常に感謝いたしますとともに、私どもも、こういった機会でお話を聞かせていただいたことを真摯に受けとめて、我々の政策の中でも考えていきたいと思っております。

さて、本日は知事が、本来お邪魔して、ごあいさついただくところでございますが、どうしても欠かせない用務ございまして、私の方から知事の祝辞を皆様方にお伝えさせていただきます。

第５回全国原子力発電所立地議会サミットが、兵庫で開催されましたことを心からお喜び申し上げます。ここ兵庫は、あの阪神淡路大震災から11回目の１月17日を迎え、多くの皆様と安全の日の集いを行いました。この間、皆様を初め、内外から温かい御支援をいただきながら、復興に懸命の努力を重ねてまいりました。おかげをもちまして、人口、産業なども震災前の水準に回復し、来月16日には神戸空港が開港、秋には野路菊兵庫国体の開催が予定されるなど、兵庫は新たな一歩を踏み出すことができました。皆さんの御支援に心から感謝いたします。

被災地兵庫では、この１月を減災月間と定め、本日も含め県内各地での防災訓練や震災の経験と教訓を語り継ぐ取り組みなど、さまざまな活動を展開するとともに、昨年９月からは、住宅再建共済制度を本県独自でスタートさせるなど、減災社会づくり、安全・安心な社会づくりに努めております。このような中で開催されました、被災地兵庫での２日間のサミットは、まことに意義深いものだと考えております。原子力発電所は今日の発電供給量の約３割を占め、我が国の民生・経済・社会にとって欠かせない施設でありますが、それだけに安全性の確保が何より重要だと考えております。

近年、尼崎ＪＲの脱線事故、証券取引所のたび重なるミスなど、社会システムへの信頼が揺らいでおります。安全神話が崩壊したとも言われる中で、行政や企業は専門家としての使命感や責任感が強く求められていると考えております。こうした中で、原因の究明はもとより、効率や利益だけでなく、人命と安全性を優先させるシステムの整備や、セーフティネットの構築、適切な情報公開など、不断の努力が不可欠と考えております。皆様の原子力施設の安全確保や防災対策の議論の積み重ねこそが、安全・安心な社会の基盤を、より確かなものにしてくれるに違いありません。

２日間のサミットの、大きな成果のもとに、皆様がさらなる英知を結集し、今後とも住民の安全確保と福祉の向上、地域の振興のため、より一層御活躍、御発展されますことを心からお祈りして、あいさつといたします。

平成18年１月19日、兵庫県知事、井戸敏三

以上、代読させていただきました。本日は本当におめでとうございました。

次期開催地代表あいさつ

「第６回全国原子力発電所立地議会サミット」担当Ｂブロック代表
全国原子力発電所立地市町村議会議長会　副会長
双葉町議会議長　**谷津田　光　治**

ただいま、御紹介をいただきました福島県双葉町と申しますのは、東京電力第一原子力発電所の所在地であります双葉町議会の谷津田でございます。

次期開催地Ａブロックを代表いたしまして、一言ごあいさつを申し上げます。

まず２日間にわたり、第５回全国原子力発電所立地議会サミットが御参会の皆様方の御協力によりまして、無事終了することができました。心より厚く御礼申し上げます。

今さら言うまでもなく、この原子力発電所サミットは、原子力発電所やその関連施設が立地されている市町村の議員が一堂に会して、賛成、反対の立場を超え、地域振興や原子力発電所に対する安全確保はもとより、住民の不安解消に向けた取り組みに標準を当て、原子力を取り巻く諸問題について公平な議論と意見交換を行うことが目的であると考えます。

こうした中で、今回のサミットは、「原子力発電の未来～その安全と安心を求めて～」をテーマに、参加者が、それぞれの立場で共通している問題、課題について大きく４つの項目に絞って分科会で議論していただき、先ほど分科会の報告を受けて、サミット宣言を決議したところであります。

本サミットにおいて討論されました率直な意見、情報が各市町村で生かされることを願うものであります。

終わりになりますが、柏崎市議会さんを中心に、今回のサミット開催に御尽力をいただきましたＢブロックの市町村議会の方々、経済産業省、文部科学省各位の方々の御協力によりまして、このようにサミットが盛会裏に終了したことに対しまして、衷心より厚く御礼を申し上げる次第です。

次回サミットの開催地はまだ決まっておりませんが、Ａブロックが担当で開催させていただく予定であります。

２年後に、また皆さんとお会いできますことを楽しみに、次回サミットも成功することを心から御祈念申し上げ、簡単ではありますが、ごあいさつとさせていただきます。

この２日間、大変御苦労さまでした。

閉会のあいさつ

第５回全国原子力発電所立地議会サミット　副実行委員長
薩摩川内市議会議長　**今別府　哲　矢**

閉会に当たりまして、一言ごあいさつを申し上げます。昨日からきょうにかけて、第５回全国原子力発電所立地議会サミットが、435名の、皆様方の参加のもとに、真摯に議論を展開していただき、このように盛大に閉会することができますことを、心から感謝とお礼を申し上げます。

また、公務御多忙の中、私たちのこのサミットに多くの御来賓の皆様方に駆けつけていただき、温かい激励をいただきましたことにお礼を申し上げたいと存じます。

また、今回のサミットにあわせて、国の関係職員の皆様、そして、電力事業者の皆様方におかれましては、各分科会にも御同席していただきまして、私たちの切実な願いをお酌み取り、声をお酌み取りいただきまして、心からお礼を申し上げたいと存じます。

今日、中国、インド等の人口を多く有する地域の経済、社会の発展に伴い、我が国のエネルギー政策はこれまでにも増して、一段と原子力に依存する度合いが高まってくるのではないかと思っております。今回の、それぞれの分科会で議論いただいた結果で、それぞれの原子力発電所の抱える課題が、具体的になってきたのではないかというふうに思っているところであります。

また、会の中で、これからの課題については、積極的に解決策を見出すべきでは、という意見も出されているところであります。今後、それぞれの議会が連携を深めながら、また、この立地議長会として全原協とも連携をとりながら、国、電力事業者に対して申し入れ活動等を進めていかなければならないと考えております。

最後になりましたが、今回のサミットに向け、御前崎の議長さん、事務局長さんを初めとする実行委員の皆さん方、また会長市でございます柏崎の議長さん、局長さんには、この開催に向けていろいろな取り組みをしていただきまして、このように盛会裏に終了できましたことを心から厚くお礼を申し上げたいと存じます。

次回の開催は隔年ごとということで、２年後にＡブロックで開催されますが、今後とも各議会の中で課題を持ち寄り、そして交流を深めながら、次回の原子力サミットが成功裏に進めていくことができますように、皆様方の御協力を、お願いを申し上げたいと存じます。

最後に、重ねて今回のこのサミットに御協力いただきました皆さん方、また参加いただきました議員の皆様方、事務局の皆様方にお礼を申し上げまして、閉会のご挨拶とさせていただきます。

大変ありがとうございました。

開会のあいさつ

第5回全国中小規模病院連絡会議　協賛行政関係
岡山県知事　**会頭挨拶　竹　矢**

開会に当たりまして、一言ご挨拶を申し上げます。昨日からきょうにかけて、第5回全国中小規模病院連絡会議、ご苦労の多い、お疲れの、学問的の会議のもとに、有意に議論を展開していただいたことは、このように盛大に開会することができましたこと、心から感謝と敬意を申し上げます。

また、会館諸会社の中、私たちのこのようなことに対して、開催来賓の皆様方に御参加いただいたことは、誠にありがたいご厚意をいただいたことに感謝を申し上げたいと存じます。

また、今回のやり方にあたって、国の関係機関の皆様、そして、県知事来賓の皆様方においでいただいては、多分科学にも無理解していただいたと思って、私たちの世界全般にわたる問題に、門を開いた形のいたしかたをして、心から感謝を申し上げたいと存じます。

今日、出席、オブザーバの人口も多くなる地域病院連絡、自治の会議にはいろいろ、医療関係のことはもう一度議論されましたことにも関して、一般と地域の自治に応じた医療を変革の場合の問題をしてくるのではないかと思っております。今回の、それぞれの分科会で議論されたことの結果、それぞれの関係者が充実理解の結果を深め合い、日本国内、世界中にもってこられるのではないかと考えられるであります。

さて、この中で、これからの課題としては、第一番目に報告を提出されたものとしては、ひとつの結論を出されているようであります。今後、それぞれの議会の協議を深めるのみか、また、この立場を踏まえまして、各地域にも広めるものであります。国、県行政者に対して中央社会制度を強めていただくようにお願いしたいと考えております。

最後にもう一度、今回のやり方、今回のやり方の問題、関係機の議員さん、事務局長さんの多年にわたる大変苦労の皆さんに、また、今後、長年にこれまで日時の議員さん、これらの方々に感謝を捧げます。そして今後を強めたい。太田の理事長はテーマの成功に向かってこれからやること、皆様方の協力を、医療方の問題に、また、医療の中に上げていきます。

最後に、東京で今回のこのやり方に関係されたことを申し上げます。また、会場関係の方々の皆様方の献身的な、本当にご苦労をいただいたことに感謝を申し上げまして、開会のご挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。